辻川だより

第３５号［2015秋号］　平成２７年９月１９日発行

発行　辻川区　［辻川公民館］
〒679-2204　福崎町西田原 1227
TEL　0790-22-5763
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www10.plala.or.jp/tujikawa/public_html/

辻川界隈ジオラマ（模型）の制作

区長　釜坂道弘

福崎町では、平成２６年にまちづくりの指針を示す「福崎町第５次総合計画」を策定しました。

そのなかで２７年度の事業として、辻川界隈のジオラマ模型の制作に取り組むことにしました。これは福崎町のまちづくりの施策の一つである「観光」の取り組みといえます。

ここ数年辻川界隈では、カラー舗装をはじめ「柳田國男生家」、「記念館」周辺や「辻川山」周辺の整備が進んできました。この度のジオラマ制作は、福崎町が「観光」の拠点としている辻川界隈にスポットをあて、時代とともに変わった街並みと昔のくらしを模型にて見つめてみようとするものです。

先日の公民館での聞き取り調査では終戦前後のお話が多く寄せられました。昔の街並みとくらしをみつめて今を考え、地域の活性化につなげる良い機会になればと、期待しています。辻川界隈ジオラマ模型の完成は、今年の１１月～１２月頃の予定です。みなさまも是非期待をして下さい。

浪速の猿まわし（らん太と花子）

7/26 吊り灯籠準備

辻川鬼太鼓

吹奏楽（神戸医療福祉大）

協議員会は今

７～９月の協議員会での報告　検討内容を　部紹介します。

① 要援護者調査と総合自主防災訓練の内容及び分担確認
② 文化委員会から具申を受け民俗学のタベの内容確認
③ 祭り屋台の泥台修理７月４日着工、２５日完成。９月には照明をＬＥＤ化の予定
④ 区内全防犯灯のＬＥＤ化工事完了（６月）。公民館上水道漏水防止工事完了（７月）
⑤ 秋祭りの組織運営を検討
⑥ 敬老会の催事は今年も区内七五歳以上の対象者１１６名にお祝い金三千円（町から二千円と区から千円）を。

お知らせ

■今年度自律（立）のまちづくり交付金制度の対象事業

事業内容〉① 辻川区総合自主防災訓練を１１月実施
② 公民館に車椅子　担架配備
③ 辻川だより印刷を業者に

■町が辻川界隈ジオラマ制作

冒頭の巻頭言にもあるように福崎町では当初、柳田國男さんが辻川におられた頃（明治８～１９年）のジオラマ（当時の街並みを復元した小型模型）制作を予定していたようだ。当時の辻川の戸数は８０戸前後と推定されるが、如何せん１３０年以前の街並み復元は難しい。

■５年に１度の**国勢調査**の調査員として辻川区から鈴木和満氏（３隣保）と松岡博子氏（５隣保）を推薦。今回から始まるインターネット回答がなされなかった世帯には、１０月に従来通りの調査が実施される。

祭礼行事の報告

◆７月５日（日）夏えびす

初夏の風物、山桃の落実が迎えてくれた鈴の森神社で、３０名余りのお参りがありました。

７月５日　山桃収穫中（商工部会）

◆７月１２日（日）夏まつり

井ノ口の役員さん７名を含め４０名弱のご参拝の下、祭祀させていただきました。そして氏子の皆さんが暑い夏を無事過ごせますよう夏越のお祓いを受けました。［十五隣保］

◆７月２０日（祝）鈴の森神社植木剪定

セミの声がやっと賑やかになった梅雨明け初日、消防ＯＢ・商工部会・協議員約２０名で境内の植木剪定と清掃を行った。

《当面の予定》

９／２７　道普請（少雨決行）
１０／１０・１１　秋祭り
１１月　フラワーポット植替
／７　臨時隣保長・各種団体役員会議
／１５　総合自主防災訓練
１２／５　隣保長・各種団体会議

事業報告

◆７月４日（土）

隣保長・各種団体役員会議

① 民俗学のタベの詳細説明
② 自律（立）のまちづくり交付金制度の対象事業として秋に総合自主防災訓練を計画。その一環として７月に、ひとり暮らしや要介護高齢者の隣保内調査を実施。併せて、当該要援護者の支援チームを隣保内に設ける件について報告・依頼
③ 村香典のあり方について来年度総会で区としての新方針を説明すべく検討に入る。
④ 指定外のゴミ出しが目立つ。ゴミは水切りを確実に。

◆７月１７日（金）

人権・青少年健全育成研修会

台風１１号接近による気象警報発令のため延期に。

◆８月１日（土）

民俗学のタベ

春に界隈展を行ったため夏の準備は２６日の灯籠吊りや会場設営から始まった。

当日は３７．７℃と県下一の暑さを記録した福崎であったが、それ以上に境内は熱気に包まれた。今回の民俗学のタベでは今年初めて委嘱された文化委員が要所々で活躍した。内容確認・電気配線・音響・何とかスムーズに進行したのもその陰に文化委員の働きがあった。もちろん今年も各種団体の皆さんには準備から夜店、そして翌日の片付けまで大変お世話になった。感謝したい。

鬼太鼓が今回の納涼大会で３０年目の披露となった。子供たちが育つ地域の伝統行事としていつまでも残したい民俗学のタベである。ところで、来年への課題として、開式を３０分早めては?、猿まわしを１時間余り早めたが適当であったか、地元辻川・福崎の住民による舞台を増やす等、検討したい。

◆８月２日（日）

町内一斉クリーン作戦

朝６時から中学生による辻川山公園周辺のゴミ拾い、８時から隣保単位の一斉清掃。そして昨年から、民俗学のタベの片づけを９時から行うことになった。早いうちの作業は熱中症対策にもなり、ありがたい。

◆８月１８～２０日

第３４回 自治会対抗親善ソフトボール大会

一回戦　○４－３　西谷
二回戦　○１３－１２　加治谷
三回戦　●１－２３　吉田

今夏も逆転の辻川健在。秋雨前線停滞による天候不順の中、しかも不慣れな八千種小グランドでの連戦ではあったが、ギャラリーの熱い声にも後押しされ、三回戦までよく健闘した。

辻川山公園の清掃協力

８／２９、秋雨前線隙間の晴天の下、第Ⅱブロックを中心に辻川区から３０名弱の参加があった。夏休みで賑わった公園が少し落ち着いた。御苦労様。

秋祭りのご案内

10日 宵宮　11日 本宮

7/25 屋台戻る（泥台新調，本棒・脇棒削り仕上げ）　写真は新見氏提供（①②③の順）

☆ 屋台宮入順と宮中での位置

いざ！秋祭り

本殿

拝殿

舞台

《西側》

4．中島
6．加治谷
8．吉田
10．西野
12．八反田

《東側》

1．田尻
2．大門
3．井ノ口
5．西光寺
7．辻川
9．北野
11．長目
13．亀坪

（辻川の休憩場所は屋台の東）

☆ 秋祭りまでの予定

肩合せ　：10月4日14時
大鳴らし：10月8日

☆ お願い（昨年の成果より）

① 休憩所の後片付けは練り子全員で（背を見て育つ子ら）

② 身長による棒割の徹底を！

新乗子6名

☆ 熊野神社本宮の予定

宮入開始　午後1時20分
昼休憩　午後2時50分～
宮出開始　午後4時
宮出完了　午後5時20分
（宮裏通りは6時まで歩行者占用）

約百年前の鈴の森神社改築上棟式（第一回）

【写真1】愛宕社下の記念碑

大正十年（1921年）にはわずか約90戸（福崎町史第一巻）であった辻川が、その前年に井ノ口と共に村を挙げて祝った鈴の森神社改築上棟式（その記念碑が【写真1】）について、今号から3回連載でお届けします。出典は福崎町史第四巻に納められている辻川地区有文書「鈴の森神社上棟行事および収支明細書」（大正九年）。なお、当時の写真の多くは三木家（美子氏）や伊藤源五氏から提供されたものです。4月の辻川界隈展でも一部紹介したものの、出典の不明な写真もあります。心当たりのある方は編集子までお知らせください。

明らかな間違い以外は原文通り。ただし、読みやすいように改行や句読点の修正を行い、送り仮名、注記を付けている。また、原文のカタカナ部は地区名以外ひらがなに換え、小見出しは□で囲っている。その他の符号は次の凡例の通り。なお、ゴシック体の文章は編集子の追加である。

原文に追加した符号の凡例

〔　〕読み仮名　〒　〕今の用語
―（注1）注記あり　［　］補足説明
【　】写真　※―今の秋祭りでも思い当たる節あり

大正九年十月十五日より十九日まで五日間、鈴森神社上棟式を行ふ。

招待村

亀坪、加治谷、大門、北野、田尻、西光寺、中嶋、長目、八反田、吉田、八幡、福崎新、山崎、〆（しめ＝合計）十三ヶ村

各村共練物（注1）及び造込（注2）をなすに付、小屋掛（注3）の位置は神社周囲及び公園、振武館裏【写真3】の予定なりしも各村より種々交渉あり。其（そ）の結果、吉田・加治谷・長目・八幡の四ヶ村は下の田を選定す。十日より小屋掛に掛かりし処（ところ）北野分狭き為俄然（注4）田を選定す。

練物は北野・長目・大門は屋台を買い求め（注5）、吉田は新調、中嶋の如きは練物当日朝買入れ、他は自村にて作りし物。

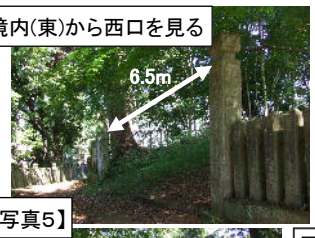
造り物（注6）の如きは各村共競争的にして実に見事なる物斗（ばか）なり。

【写真2】

旧田原村役場（10隣保山本宅辺り）を起点に北へ並ぶ屋台

十五日練込〒宮入〕順番は抽籤（せん）の結果、左記の通り1吉田、2亀坪、3八反田、4加治谷、5田尻、6長目、7山崎、8八幡、9北野、10大門、11中嶋、12新町、13西光寺、井ノ口、辻川の順序に、役場（注7）前を起点とし県道を北へ順次午前十一時集合【写真2】の上、練込をなす（注8）。

【写真4】



境内（東）から西口を見る

【写真5】

井ノ口参道から西口越しの境内

屋台の練込コースには難所が何箇所かある。まず、鳥居は移転したが高さ 2.8mしかないので南を迂回したか？　次に宮裏からの下り口（西口）は大玉垣の幅が 6.5m しかないので縦棒（本棒）が四間以上ある今の屋台では通行は困難。さらに井ノ口参道は入り口幅が 2.3m しかなく、大きい屋台は境内に戻り、正面石段を下りた可能性大。

正面鳥居【写真3】より登り（注9）、宮の東口【写真4】より裏に廻り、西口【写真5】に出て（亀坪は造込のみ）各小屋【写真6】に納む。‥『つづく』

【写真6】

練物や造り物を納める仮小屋が立つ宮前。振武館西には五反幟が翻る。中央奥に鳥居が見え、手前右手の大きな仮小屋前には見物人が並ぶ。

【写真3】

明治 41 年奉納の鳥居がこの上棟式を前に現在地に移転された。振武館裏（右手）には仮小屋が立つ。［出典は広報ふくさき 2015 年 1 月号］

（注1）神輿（みこし）などを中心とした祭礼行列のこと。また、その行列の山車（だし）、屋台、山鉾などのこと。練物を奉納する際や観衆へ披露するのに動かす様子のことを練（ね）るという。

（注2）造り物を神社に奉納すること。

（注3）仮小屋をつくること。

（注4）にわかに。急に。

（注5）大門はこの時、今の屋台（平成25年の大改装前）を加西郡富田村谷村（現谷町）から3350円（当時米一俵が20円、百七十俵弱に相当）で購入。中島屋台（先代）や今の北野屋台も鈴の森神社の上棟式にあわせて北条方面から購入された（大門の関健太郎氏のHPより引用）そうです。その他の村の練物は屋台かどうか不明。ただし、【写真2】では7台前後の屋台が見える。

（注6）伝説や歴史物語、芝居を題材にした人形などを飾って公衆に見せるもの。

（注7）当時の田原村役場は八隣保から十隣保に入ったところの現国道の東側にあった。

（注8）鈴の森神社までの経路は、現国道を北上し井ノ口公民館前から北野西ノ池横を通り鳥居前へ、と推測されるが、大正期の地図を見ると、「どど橋」を渡り谷川に沿って東へ、段丘崖の坂道を登り鳥居前へというコースも考えられる。練物の横棒全長の長さ制限が七尺（210㎝余り）以内となっているから、後者のコースなら事前に若干の拡幅が必要だったか。

（注9）当時はまだ、現在の屋台が上っている境内への坂道はなかったらしい。この坂は大正時代後期に造成され、周辺には紅葉の植林も併せて行われたそうだ【写真7】。

【写真7】

境内への坂道造成。見事な松が生える（写真3も）。

編集後記

辻川の歴史を再発見しようと「辻川歴史研究会」が動き出しました。当研究会は平成20年から活動してきた「辻川歴史探検隊」の成果を引き継ぐもので、今回の昔の写真も当研究会に汚れを修正していただきました。今後、辻川だよりでも成果が紹介できればと思っています。（ちょうご期待　田崎）